

1 実践例—4年（道徳）—

(1) 主題名 何が大切かを考えて 1—(2) 思慮反省

資料名「どっちにしようか」(『小学校道徳4 ゆたかな心で』東京書籍)

(2) 本学習における知識創造

広の思考や思考の根拠について話し合うことによって 広や自分が行為の元としている様々な道徳的価値に気づき 思慮反省の大切さを深く自覚する営み 発展として 失敗したときこそよく考えるチャンスだ よく考えて行為をしていこうという 思考や心情を育むことを含む

導入では、授業者の経験を聞かせ、自分の経験を思い出したり、それを聞いたりすることによって、「よく考えて行為をすることが大切であること（思慮反省）」について関心を向けるようにする。

展開前半では、まず、「広さんはどうして一人で考えこんでしまったのか」について話し合い、広の状況や心情を、共感的に理解するようにしたい。お母さんとの約束を守れば友達が困り、試合を続ければお母さんが困る、そのために、広は自分自身も困っている。困ったという心情を状況の全体像から理解することによって、広がもつ様々な道徳的価値—「約束を守ること（規則の尊重）」「お母さんの言うことを聞くこと（尊敬感謝）」「学級で協力すること（愛校心）」などに気づく手がかりにしたい。

つぎに、「迷っている広さんはどうしたらよいと思うか」について、理由とともに考え、班で意見を聴き合い、その後、学級全員で話し合う。「お母さんとの約束を守る」か「試合を続ける」か—どちらの行為をすべきか、その行為を動機付けている欲求や良心と、行為の結果から判断し、意見を出し合う。

「お母さんとの約束を守る」べきだと判断した場合、その理由には「約束を守るべきだ（規則の尊重）」「お母さんの言うことを聞かなくては（尊敬感謝）」などの欲求や良心が理由として挙げられ、その中には括弧書きしたような道徳的価値が潜んでいると考えられる。一方、「試合を続ける」べきだと判断した場合、「試合を続けるのも約束を守ることだから（規則の尊重）」「自分が試合をやめれば、友達が困る（思いやり、友情）」などが理由となるであろう。どの理由にも合理性があり、「迷っている広さんはどうしたらよいと思うか」の答えを一つにまとめることはできない。

このとき、広も周りの人も困っている状況はどのようにして起こったのか、確認させたい。広は、お母さんとの約束があったことを忘れ、友達と試合を始めてしまったために、困っている状況を自らつくってしまった。軽率だった、よく考えていなかったと言わざるを得ない。広が、「よく考えて行為をすること（思慮反省）」という道徳的価値をもっと重視していれば、「お母さんとの約束があるのに試合を始めてしまった」という間違った行為をせず、このような状況をつくらずにすんだと考えられる。「よく考えて行為をすること」は、やはり大切であると、子どもが理解するようにしたい。

展開後半では、「自分が行動するとき大切にしたいことは何か」、自分の行為を見つめて書き、それを聴き合う。「だれかと約束をしたときは、ほかの人と約束しない」「断るときは、言いにくくてもはっきりと伝える」など、具体的な行為を話す子も多いであろう。「よく考えて約束をすることだね」のような確認を教師が時折はさむことによって、子どもは思慮反省という道徳的価値を自分との関わりで理解できると考えられる。

終末では、失敗したことを契機に、よく考えて行動するようになった子の例を挙げて、「失敗したときこそ、よく考えるチャンス」「自分もよく考えて行動したい」という思考や心情をもつようにしたい。

なお、行為と行動とは、異なる字義がある。ただ、人間のふるまいとして同義に使われることも多い。そこで、子どもの生活に根ざした言葉で学習をしたいと考えることから、授業では、行為の同義語として行動を用いていく。

(3) 本学習における「プロセスの自覚」を促す・活かすために

① 本学習におけるよさ

聴き合いや話し合いを通して、個々の子どもは、友達や自分が行為を決定するときには「よく考えて行動すること（思慮反省）」の他にも様々な道徳的価値が関わっていることに気づくと考えられる。「約束を守ること（規則の尊重）」「お母さんの言うことを聞くこと（尊敬感謝）」「家の仕事に協力すること（家庭愛）」「学級で協力すること（愛校心）」「友達のことを思いやること（思いやり）」などである。

多様な道徳的価値に触れておくことは、今後、これらの共通点を結びつけたり、優先性を考えたりして、より一般的な道徳的価値、例えば、「相手に迷惑をかけないようにすること」「自分がされて嫌なことは相手にしないこと」を生み出すことにつながると考えられる。

また、自分や友達が大切にしている道徳的価値を知り、自分や友達に対する理解を深めることが、本学習における学び方のよさであると考えている。

② よさの共有のための手だて

ア 可視化

展開前半で、まず、広を中心とする人間関係やそれぞれの心情について図式化して板書し、状況について全体的なイメージをもたせる。この手だてによって、「お母さんとの約束を守る（規則の尊重、尊敬感謝など）」か「試合を続ける（愛校心、思いやりなど）」か—どちらの行為を選択すればよいか、広迷っていることがはっきりする。また、どちらの行為も、欲求や良心によって動機付けられていることに気づくことができる。と考える。

つぎに、「迷っている広さんは、どうしたらよいと思うか」、つまり、「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか、心のカードを用いて割合で表すようにさせる。二者択一ではなく割合で表すことによって、どちらの行為も否定せず、自分がより善いと判断する行為を選ぶことができる。

そして、割合の多い行為について、その行為を選んだ理由を書く活動を取り入れることによって、広の欲求や良心について考えを明らかにさせる。「お母さんとの約束を守る」べきだと判断した場合には「約束を守りたい（規則の尊重）」「お母さんの言うことを聞かなくては（尊敬感謝）」などの欲求や良心が理由として挙げられると考えられる。一方、「試合を続ける」べきだと判断した場合には「学級みんなで協力して試合をしたい（愛校心）」「自分が試合をやめれば、友達が困る（思いやり）」などが挙げられるだろう。欲求や良心は、括弧書きにした道徳的価値によって方向付けられていると考えられる。

展開後半では、「自分が行動するとき大切にしたいことは何か」について、書く活動を取り入れることによって、自分の行為を見つめさせ、「よく考えて行動することが大切であること（思慮反省）」という道徳的価値を自分との関わりで理解させるようにしたい。書く活動と、それを聴き合う活動によって、導入時と比べ、思慮反省の大切さを理解していることに気づくと考えている。

さらに、板書でも、思慮反省という道徳的価値の自覚が深まったことに気づかせるため、導入で子どもが話した「よく考えて行動すること」の経験を書き残しておき、終末の書く活動の内容と比べさせる。初めは、よく考えた「行動」に目を向けていたが、最後には「よく考えること」の大切さが理解できたことに気づかせたい。

イ 「かかわり」

本資料は、子どもの日常体験にありがちな行為を描いている。また、広「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか考えさせ、子どもたちが様々な道徳的価値に気づかせることができる。

「迷っている広さんは、どうしたらよいと思うか」について、班で聴き合いをする。自他の意見を知り人間理解につながるように、聴き合いの前に「聴き合いの目的は、お互いの考えをよく知り認め合うこと」「班で考えをまとめる必要はなく、相手と向き合って話をよく聴き、わからないことがあれば確認すること」を伝える。聴き合いをふまえることで、話し合いで自信をもって意見を出せるようにする。

話し合いでは、「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか、その理由に注目させるようにする。例えば、「お母さんの言うことは聞かなくてはならないから」という理由は、広の良心、つまり、お母さんへの尊敬の表れであり、お母さんへの尊敬は、お世話になっている人への尊敬という道徳的価値に基づくと考えられる。理由に含まれる多様な道徳的価値に気づくことは、今後、より一般的な道徳的価値を生む知識となる。また、友達の意見を聴き、自分との同異を知ることは、友達や自分を理解することにつながる。と考える。

そのうえで、状況を図式化した板書を用いて、広困っている状況に再び意識を向けさせ、広の軽率な行為に気づかせる。「お母さんと約束したのだから、慎重に行うをしよう」という欲求・良心を持ち続けることができれば、困っている状況にはならなかったはずである。つまり、よく考えて行為をするという道徳的価値を重視していなかったことになる。このことを、子どもが筋道立てて説明することは難しいと考えられるため、子どもの意見を確認したり補足したりして、「よく考えて行動すること」が大切だと理解できるようにする。

ウ 実践的な自覚へのデザイン

授業者の経験を聞かせることによって、よく考えて行為をすることに関心を向けるようにする。さらに、広の困っている状況を可視化することによって、子どもが課題をつかむことができるようにする。

授業後は、「大事なことをよく考えて行動する」ことについて掲示し、「よく考えることって大事なんだ」「失敗したときこそ、その後よく考えて行動しよう」という話題に触れるきっかけとする。

本学級では、子どもの成長や善い行いを、学期のふりかえり（『かしわっ子の成長』）に書き添えて、子どもと保護者に伝えている。学期末に近いことから、学期のふりかえりのメッセージや、個人懇談を通して、「よく考えて行動する」善さを保護者にも伝え、「よく考えて行動しよう」とする子どもを家庭とともに見守っていく。

(4) 本学習の展開

主な活動と内容	時	よさの共有のための手だてと意図
<p>1 ねらいとする道徳的価値に気づく</p> <p>○「大切なことを考えて」行動することについて、考えよう（授業者の経験を話す） 朝休みに教科書の準備をして本を読んでいたら、みんなは絵の具セットまで用意していた</p> <p>○みんなは、よく考えずに行動して、うまくいかなかったことはあるかな</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 買い物を頼まれたけど、テレビを見てからと思っていたら、叱られた ・ 塾が休みだと思って、友だちと約束したら、休みではないことがわかり、約束を断った。 <p>2 資料を読み、道徳的価値を高める</p> <p>○広さんは、大切なことを考えて行動しているかな 資料を読みます</p> <p>○広はどうして一人で考えこんでしまったの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 試合をやめると、1組のみんなが困る ・ お母さんとの約束を守らなければ、お母さんも山田さんも困る ・ みんなが楽しんでいるのに、一人だけ抜けたら、みんなに悪い <div data-bbox="181 1003 748 1093" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>迷っている広さんは どうしたらよいのだろう</p> </div>	<p>1 0</p> <p>2 0</p>	<p>実践的な自覚へのデザイン よく考えて行為をすることに関心を向けるため、授業者の経験を聞かせるとともに、自分の経験を思い出したり、それを聞いたりさせる。</p> <p>可視化 広を中心とする人間関係やそれぞれの心情を全体的にイメージさせるため、それらを図式化して板書する。 広は「お母さんとの約束を守る」べきか「試合を続ける」べきか—どちらの行為をすべきと考えるのか、自分の立場を決めてその理由を考えさせるため、自分の立場を心のカードを用いて割合で表すようにする。 広の欲求や良心を明らかにするために、割合の多い行為について、広がその行為を選ぶ理由を書く活動をさせる。</p> <p>「かかわり」 広はどちらの行為をすべきだと考えるのか、班で聴き合いをする。自他の意見を知り自他の理解につながるように、事前に活動の目的と方法を確認して、聴く構えをもたせる。聴き合いをふまえることによって、学級全員の話し合いで、自信をもって意見を出せるようにする。 話し合いでは、道徳的価値に気づくことができるように、広が行為を選ぶ理由に注目させ、広の欲求や良心について考えさせる。 さらに、広の軽率さに注目させ、「よく考えて行動すること」という道徳的価値を重視していれば、「慎重に行動しよう」とする良心が働くはずであることに気づかせる。ここで、思慮反省の重要性を理解させるようにする。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・ お母さんとの約束を守る—約束は守らなければならないから、お母さんが困るから ・ 試合を続ける—1組が負けてしまうから、友達が困るから <p>○広さんはどうして苦しい思いをすることになったの</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広さんが、お母さんと約束していたのに、友だちと野球をしてしまったからだ <div data-bbox="181 1413 748 1503" style="border: 2px solid black; padding: 5px;"> <p>大切なことをよく考えて行動することが大事なんだな</p> </div>	<p>1 0</p>	<p>可視化 大事なことをよく考えて行為しているか、自分の行為を振り返るようにするため、書く活動と、それを聴き合う活動を取り入れる。 表面的な「行動」から内面的な「よく考えること」へと思慮反省の理解が深まっていることに気づかせるため、導入で子どもの経験を書いた板書と、終末の書く活動の内容を比べさせる。</p>
<p>3 高められた道徳的価値を基に、自分を振り返る</p> <p>○自分が、行動するとき大切にしたいことは、何だろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ だれかと約束をしたときは、ほかの人と約束しない ・ 相手のことを考える ・ 断るときは、言いくくてもはっきり伝える <p>4 道徳的実践への思いをもつ</p> <p>○失敗を契機にして、よく考えて行動するようになった子がいるよ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ (授業者の説話を聞く) 	<p>5</p>	<p>実践的な自覚へのデザイン 友だちの思考や価値観、心情を受けとめ、主体的かつ協同的に、より善い行為や生き方を求める心情を育みたい。</p>